

令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 4・1・21

事業名	第15回日本禁煙学会学術総会		
会派名	大和正風会	報告者	山本光宏 (☎ XXXXXXXXXX)
参加者	山本光宏		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input type="checkbox"/> ③広聴 <input type="checkbox"/> ④その他 ()		

概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日 時	訪問先、会場、主催者等
	① 令和3年10月16日 9時～17時25分	J:COMホルトホール大分 一般社団法人日本禁煙学会
	② 令和3年10月17日 9時～17時10分	J:COMホルトホール大分 一般社団法人日本禁煙学会
目的 (どの様な課題を解決する為かなど)	市民の皆様方の健康を考える時に、「たばこ」というものが要因として挙げられる。公衆衛生・健康福祉といった行政課題について、現在におけるたばこの問題について、学術的観点から最新情報や様々な知見をお聞きし、大和市の施策に反映できる為の気づきや情報を得る為。	
内 容	【講演】 COVID19と医学研究 【講演】 受動喫煙ゼロの環境をつくるために 【講演】 HEATED TOBACCO PRODUCTS:A NEW FRONT IN THE TOBACCO WARS 【講演】 禁煙による健康づくり I・II 【シンポジウム】 喫煙と呼吸器疾患 【シンポジウム】 喫煙と循環器疾患 【シンポジウム】 各科領域における禁煙治療の up to date 【シンポジウム】 新型タバコの真実と禁煙活動の将来 【シンポジウム】 喫煙とがん 【ワークショップ】 禁煙遠隔治療の現状と課題 【ワークショップ】 教育現場における無煙環境推進活動	
成果等 (市に活かせること等)	・大分県に於いては行政(県)が「健康寿命日本一」を目指す上で、喫煙は重要な課題であると捉え、薬剤師会や企業、NPO等と協働事業を立ち上げ、それぞれの強みを施策に活かしている。広域自治体と基礎自治体との違いはあるが、行政が多様な主体と協働することは十分可能でとえられる。 ・大分市は「いきいき健康大分市民21」に基づき様々な目標を掲げて各種事業を実施している。各種事業は大和市でも実施しているものもあるが、禁煙への具体的な目標設定を行い禁煙・受動喫煙防止の推進に繋げるべきではなからうか。 ・禁煙を促す直接的な施策として禁煙治療が挙げられる。市としてもっと積極的に実施するべきであると感じた。法改正や診療報酬改定が行われオンライン禁煙治療、診療アプリ等、デジタル技術を使用した禁煙治療も可能となっているので、積極的に活用できるのではないか。	
事業費	78,656 円	

※訪問先が2カ所以上の場合には行程表を添付すること

令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 4・4・14

事業名	大和駅・中央林間駅周辺のポイ捨てごみ分布実態調査		
会派名	大和正風会	報告者	山本光宏 (☎080-5519-3216)
参加者	山本光宏		
区分	<input type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input type="checkbox"/> ③広聴 <input checked="" type="checkbox"/> ④その他(政務調査)		

概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日時	訪問先、会場、主催者等
	① 令和4年3月8日 9時～12時	大和駅周辺の調査 調査会社：株式会社ピリカ
	② 令和4年3月9日 9時～12時	中央林間駅周辺の調査 調査会社：株式会社ピリカ
	③ 令和4年3月10日 ～3月31日	データ解析等 調査会社：株式会社ピリカ
目的 (どの様な課題を解決する為かなど)	・大和駅・中央林間駅周辺路上でのたばこ吸い殻等のポイ捨てごみ分布状況の実態を把握し、今後のポイ捨てごみ減少施策に役立てる為。 ・条例改正前に同地点で実施した調査データと比較する事により、改正条例施行の効果について考察を行う。	
内容	・「大和市路上喫煙の防止に関する条例」の「路上喫煙重点禁止区域」に指定されている大和駅と中央林間駅周辺を調査範囲とした。 (令和2年3月に実施した「タカノメ」調査と同一ルート。) ・調査ルート上にて専用のスマートフォンアプリを使用して動画撮影を行い、分析に必要な動画データを取得。その動画データを株式会社ピリカが開発したごみ分布調査サービス「タカノメ」で解析、地点ごとのポイ捨てごみの種類及びその数量を読み取った。	
成果等 (市に活かせること等)	・両エリア共、2年前の調査時よりごみの総量自体は減少している。しかしながら、駅の乗降客数で同程度の他の駅と比較した場合、同程度の水準になっただけであり、ポイ捨てごみ自体は依然として数多く存在していると言える。 ・ごみの内訳としてはタバコの吸い殻が両エリア共に半数近くを占めている。しかし、その割合は2年前に比べて減少傾向が見て取れる。一定程度条例改正の効果があったのではと考える事が可能である。(勿論、コロナ禍により通行人数自体が減少したこと等の要因も十分考えられる。) ・両エリア共に、ポイ捨てごみの総数自体は減少しているが、その分布エリアは広がっている様に見て取れる。 ・前回調査時にタバコごみの分布が認められた場所は今回も分布が認められる場合が多い。これらの時点には重点的な対策を講じる必要があるのではないかと思われる。	
事業費	¥626,934 円	

※訪問先が2カ所以上の場合には行程表を添付すること

大和駅・中央林間駅周辺の ポイ捨てごみ分布調査報告書

調査実施：令和4年3月8日、令和4年3月9日
報告：令和4年3月31日

委託元：大和正風会
委託先：株式会社ピリカ



Pirika

概要



- 令和4年3月8日に大和駅周辺・3月9日に中央林間駅周辺にてポイ捨てごみ調査を実施
- 総計1335個のごみが検出され、そのうち547個がたばこ
 - たばこ以外では白色紙類573個、色付紙類87個、缶20個、ペットボトル12個、包装フィルム(色付)12個、ビニール袋(白色)11個など
- 調査ルート100mあたりのポイ捨てごみの数は、大和駅が6.94個、中央林間駅が8.47個
- 令和2年3月に同ルートで実施した調査結果との比較：
 - 100mあたりのごみの数が、大和駅では約28%に、中央林間駅では約82%に減少
- 乗降者数が同程度である他地域との比較：
 - 大和駅周辺(令和2年)の調査では、他地域の調査と比べて倍以上のごみが出
 - 大和駅周辺(令和4年)の調査では、ごみの数は他地域と同程度にまで減少